

「本山さくら」チームが昨年に続いて地方車奨励賞を受賞

(株)第一コンサルタンツ 右城 猛

日本の南海上にあった熱帯低気圧が、9日夜に台風9号に発達。高知市は雷雨に見舞われた。この日に予定されていた「高知さこい祭り・前夜祭」は中止、高知市納涼花火大会は13日に延期となった。

10日からの「高知さこい祭り・本祭」も開催が危ぶまれたが、昼前には時折小雨が降る程度に天気も回復し、11日は朝から青空が広がり、灼熱の太陽が照りつける絶好の祭り日和となった。

世界的な不況で企業倒産やリストラが相次いでおり、参加チームが大幅に減るのではないかと心配されていたが、それでも181チーム、約1万8000人の踊り子が参加し、鳴子を両手に声をからし、身を焦がし、「不況の風を吹き飛ばせ」とばかりに乱舞した。

第一コンサルタンツは、昨年に引き続き「本山さくら」チームの地方車作りの技術アドバイザーとして、そして資金面で協力をさせていただくことができた。

8月8日に本山町山崎の地方車の製作現場を訪問し、デザインを担当された本山町職員の岩本準二さん、製作を担当された藤川工務店の西岡辰男さんから色々と話を伺い、端々に大工としての誇りと意地、製作にかける皆さんの熱意を感じた。

昨年と同様に、はりまや橋公園内にある播磨屋橋の二分の一模型の太鼓橋を地方車に載せるデザインであるが、橋の下には大きな空間が設けられ、嶺北杉独特のピンク色の太鼓橋が浮かび上がる素晴らしい出来映えであった。

まさか、とは思っていたが、本当に地方車奨励賞に輝いた。二年連続の快挙である。本山町地方車製作班の皆さん、製作を担当された藤川工務店の大工の皆さん、そして声援を送り続けた本山町民の皆さん本当におめでとうございます。



知寄町の演舞場で出番を待つ「本山さくら」チームの地方車。地方車のフロントには、「(株)第一コンサルタンツ」の文字が大きく書かれている。

私の気持ちに本山町の皆さんが精一杯応えてくれたのだと思う。有り難いことである。



知寄町の演舞場で踊る「本山さくら」チーム



地方車の上では、「本山さくら」のスタッフと交流がある高松市の僧侶、柳田泰秀(たいしゅう)さんが三味線を演奏。



「本山さくら」チームの皆さん(山内佐恵さん撮影)



よさこい旗を振って踊り子を鼓舞する地方車製作班リーダーで本山町職員の岩本淳也さん。



はりまや橋商店街の木造アーケードとよくマッチする。



踊は昨年よりも数段上達していた。メンバーに笑顔が溢れ、楽しさが伝わってきた。「花メダル」をもらった人も多かったのではないだろうか。来年は是非受賞を狙ってもらいたいものである。



11日の17時、本部席がある追手筋演舞場に入場してきた「本山さくら」チーム。

(2009年8月12日)